

「姫路市における高校生の子育て・保育に関する意識調査と改善への取り組み」

姫路日ノ本短期大学 子ども・子育て研究グループ 中重直俊

1. はじめに

日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が調査した 2016 年度なりたい職業ランキングの小中学生女子児童部門において、保育士が第 1 位であり、過去 5 年のデータを見ても 5 位以内と常に上位であることは、周知の事実である。にもかかわらず、保育士・幼稚園教諭養成校への進学希望者は少子化の影響もあり、低迷状態である。

そのような背景から平成 28 年度に、「高校生の子育て・保育に関する意識調査」を行った。この調査では、将来家族をもち姫路市で子育てをしたいという意見が、22.0%と予想以上に低く、姫路市の魅力と高校生自身の子育てをしたいことについて考える契機となった。この調査から、

- ① 将来高校生自身が子育てをする楽しさよりも、
現在保護者が子育てに苦勞している（不安な）面を見ているのではないか
- ② 「家庭科」「保健」で子育てに関わる学習はあるが、
ライフプランニングを含め自分の将来の姿がイメージしにくいのではないか
- ③ 自分たちが育ってきた環境の良さに気づかずに成長しているのではないか

以上 3 点が新たな疑問として浮かんだ。そこで、本研究では、高校生を対象とした「子どもを育てたい／子どもを育てたくないを中心に、育ってきた環境や自身の性格等」を通し、高校生がもつ子育てについての意識、そして不安感等を検証すると共に改善への取り組みを目指す。

2. 研究方法と調査項目

2017 年 10 月上旬～10 月中旬に、兵庫県立 A 高等学校の 1 年生・2 年生へのアンケート調査を行なった。2017 年 10 月上旬～10 月中旬に行い、回収数は表 1 の通り。質問項目は、学年、性別、家族構成、現在の住まいについて、市町の満足度と重要度、ライフプラン（結婚、子育てなど）について、子育てをしたい理由／したくない理由、出産・子育てに対する不安について、姫路市で子育てをしたいか、「ライフプラン」関連の授業への期待（1 年生）、授業を受け興味をもったこと（2 年生）、自身の性格（自己受容、自己実現的態度、対人的積極性）について、養育者との愛着関係について、である。

表 1 アンケート回収数

	男性	女性	合計
1 年生	47 名 (23.6%)	152 名 (76.4%)	199 名 (48.1%)
2 年生	68 名 (31.6%)	147 名 (68.4%)	215 名 (51.9%)
合計	115 名	299 名	414 名

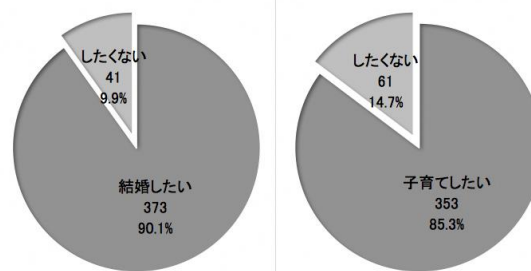


図 2 結婚、子育てについて

3. 結果と考察

① 4つの区分の愛着関係

姫路市に住んでいる、または姫路市内の高等学校に通っている高校生の乳幼児期の養育者との愛着関係について分析を行う。この質問項目については、Paker, G., Tupling, H. & Brown, L. B. (1979) の Parental Bonding Instrument 日本語版を使用した。項目ごとに設定された care (愛情) と over-protection

High Over-protection scores	
③ 愛情のない支配 感情的な冷たさと 押しつけ	② 愛情のある束縛 愛情と過保護
Low Care scores	High Care scores
④ 欠けているか 不十分な絆 無関心	① 最適な絆 愛情と自律性の許容
Low Over-protection scores	

図3 愛着の4つの区分

(過保護) の2つの値を計算し、中央値を使用して4区分した(図3)。4つの区分は、それぞれ「最適な絆」(care 高、over-protection 低)、「愛情のある束縛」(care・over-protection ともに高)、「愛情のない支配」(care 低、over-protection 高)、「欠けているか不十分な絆」

(care・over-protection ともに低)である。高校生が乳幼児期に育ててもらった保護者の養育の姿勢(4つの区分の愛着関係の質)が、彼らの子どもや子育てに対する意識にどのような影響があるのか、ライフプランニングにどのような影響を及ぼしているのか分析を行った。

愛着関係の4区分と「結婚したい/結婚したくない」については、「愛情のない支配」と「欠けているか不十分な絆」は、結婚したくないと思っている人が有意に多い。また、「愛情のない支配」は、子どもを育てたいと思っている人が、他の区分よりも有意に少なく、子どもを育てたくないと思っている人が有意に多かった。

高校生にとって出産や子育てに関して不安に思うこととして、18の項目について尋ねた。「育児・養育費用」「出産費用」「仕事をしながら子育てすることが難しそう」「出産時の痛み」「子育てするのが大変そう」といった項目に不安があるということがわかる(図4)。

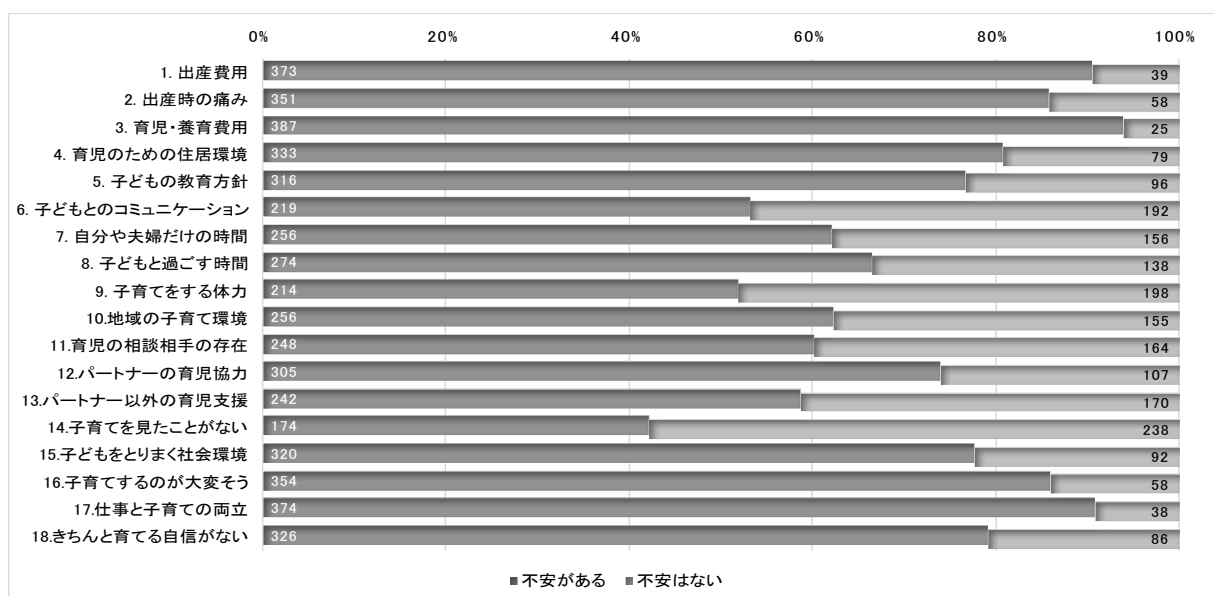


図4 出産や子育てへの不安

「愛情のない支配」は、子どもと過ごす時間が十分にとれないと思っている人が、他の区分よりも有意に多い。また、「欠けているか不十分な絆」と「愛情のない支配」は、「育児の相談相手の存在」について不安を感じている人が、他の区分よりも有意に多い。さらに「パートナー以外の家族の育児支援の有無」に関しても同様に不安を感じている。愛着の形成によって、子育てに関しての不安の違いが見られた。

②3つの性格

次に4つの愛着区分と、それぞれの性格との関係についての分析を行う。この質問項目については、平石（1990）の「自己肯定意識尺度」を用いて調査した。今回の調査では、項目ごとに設定された値を計算し、対自己領域として「自己受容（自分の正の面も、負の面も、すべてをありのままの自分として受け入れること）」と「自己実現的態度（自分の目標や指針を定め、その目的に向かう生産的な態度のこと）」、対他人領域として「対人的積極性（自分から積極的に人に話しかけたり質問したりする態度のこと）」について質問用紙に組み込んだ。

最初に愛着と3つの性格について分析を行ったところ、「自己受容」「自己実現的態度」「対人的積極性」ともに、幼児期の適切な愛情によって形成されることがわかった。

次に、「結婚したい／したくない」については、「自己実現態度」「対人的積極性」においては、有意差が認められた。一方、自己受容においては、有意な差が認められなかった。自分の正の面も、負の面も、すべてをありのままの自分として受け入れることである「自己受容」は、結婚したい、子育てをしたいという意識とは、直接的に結びつくものではなかった。しかし、「自己受容」は、「子育てへの不安」への影響は多岐にわたることがわかった（図5）。また、3つの性格と子育てに不安と感じている要素としては、「5. 子どもの教育方針」「6. 子どもとのコミュニケーション」「9. 子育てをする体力がない」「16. 子育てするのが大変そう」「18. きちんとした子どもに育てられるか自信がない」という5つの項目が浮かび上がった。

4. 育児のための住居環境		
7. 自分や夫婦だけの時間		
10. 地域の子育て環境		
12. パートナーの育児協力		2. 出産時の痛み
14. 子育てを見たことがない	3. 育児・養育費用	7. 自分や夫婦だけの時間
15. 子どもをとりまく社会環境	8. 子どもと過ごす時間	12. パートナーの育児協力
17. 仕事と子育ての両立	14. 子育てを見たことがない	17. 仕事と子育ての両立
5. 子どもの教育方針	5. 子どもの教育方針	5. 子どもの教育方針
6. 子どもとのコミュニケーション	6. 子どもとのコミュニケーション	6. 子どもとのコミュニケーション
9. 子育てをする体力	9. 子育てをする体力	9. 子育てをする体力
16. 子育てするのが大変そう	16. 子育てするのが大変そう	16. 子育てするのが大変そう
18. きちんと育てられるか自信がない	18. きちんと育てられるか自信がない	18. きちんと育てられるか自信がない
自己受容	自己実現態度	他者的積極性

図5 3つの性格と子育ての不安

「子育てへの不安」への影響は多岐にわたることがわかった（図5）。また、3つの性格と子育てに不安と感じている要素としては、「5. 子どもの教育方針」「6. 子どもとのコミュニケーション」「9. 子育てをする体力がない」「16. 子育てするのが大変そう」「18. きちんとした子どもに育てられるか自信がない」という5つの項目が浮かび上がった。これらの浮かび上がってきた不安は、他の項目とは少し違い、直接的に子どもに関わっていくことの不安であった。

③ライフプランニングに着目して

県立A高等学校でライフプランニング授業を受けた2年生が、どのような内容に興味をもったのか調査を行なった。どの性格においても、「家族との触れ合いや団らん」など、有意差が見られた。個々の性格は、ライフプランに関することへの学びの機会となっており、その性格が関心に繋げていると言える。

私立B高等学校でライフプランナーの方と、ライフプランニング授業を行った(図6)。このライフプランニング授業の前後でのアンケート調査を行ったところ、2つの変化が見られた。1クラス27名と対象者の人数が少ないので断定はできないが、「自分らしく」が減少し、その他の関心事項が増加した。これは、どこか他人事だったことが、自分の将来の問題へ変化している。2つ目は、金銭に関わる不安が解消され、新たな不安として、子どもを中心とした不安と、これから体験していくことへの不安が増加しているなど、不安の質が変化している。



図6 ライフプランニング授業

4. おわりに

今回の調査を通して、以下のことがわかった。

- ・ 養育者には「最適な愛情」と「適切な保護」が必要であり、その中で「結婚をしたい」や「子どもを育ててみたい」という気持ちが育まれる。
- ・ 養育環境が個々の性格「自己受容」「自己実現的態度」「対人的積極性」に影響する。
- ・ 「自己実現的態度」「対人的積極性」が結婚や子育てへの影響を及ぼす。
- ・ 「自己受容」の低さは、子育ての不安を表出させる。
- ・ 3つの性格ともに共通する不安は、直接的に子どもに関わっていくことへの不安だった。

また、ライフプランニング授業では学ぶことで、「他人事から自分事への変化していくこと」と、「不安の質が変化していくこと」がわかった。

高校生がもっている子育てに関する不安を探る事と、ライフプランニング授業についての調査を行うことで、姫路市の子育て環境を豊かにしていける一助になれば幸いです。

5. 謝辞

本研究において、兵庫県立香寺高等学校 中西校長先生、八木先生、私立日ノ本学園高等学校 中川校長先生、高本先生、アンケート調査を快く応じていただきありがとうございました。さらに、本研究の核となるアンケート調査に答えていただいた高校生の皆様、ソニー生命保険株式会社の松本様、杉山様、関岡様にも、心より厚く感謝しております。

6. 参考文献

- 1)中重直俊ら(2017) 姫路市における高校生の子育て・保育に関する意識調査 姫路日ノ本短期大学紀要 第39巻 p.1-8
- 2)辻野順子ら(2009) 母親の絆タイプと子の情動知能との関連性について 関西女子短期大学研究紀要 18 p.11-22
- 3)濱崎祐一(2016) ソニー生命保険現場から自然に広がったライフプランニング授業 人事実務 53 産労働総合研究所 p.35-39
- 4)平石賢二(1990) 青年期における自己意識の構造 教育心理学研究 38 p.320-329